

第 5 回

立川市長期総合計画審議会

令和 6 年 4 月 8 日

立川市総合政策部企画政策課

第5回立川市長期総合計画審議会会議録

開催日時 令和6年4月8日（月曜日） 午後7時00分～午後9時00分

開催場所 立川市役所 209会議室

出席者 [委員] 朝日ちさと（会長）、松浦司（副会長）、芦澤清八、川口哲生、片岡滋
甲野毅、小林優貴、篠原俊博、田所佳洋、辻本愛子、長井琢英、西内
絵梨子、平澤豊、福永毅、宮本直樹、萬田和正、大塚正也（敬称略）

[事務局] 渡貫泰央（企画政策課長）、矢島和晴（企画政策課連携推進係長）、
柏崎彩花（企画政策課連携推進係）、夏目 互（企画政策課長期総合計
画統括等担当係長）、中野利佳（企画政策課長期総合計画統括等担当
係）

(朝日会長)

皆さん、こんばんは。年度が替わりまして初めての会になりますが、今夜もどうぞよろしく願いいたします。

それでは、これから第5回立川市長期総合計画審議会を開会いたします。

本日の次第は、報告事項2件と審議事項2件を予定しております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まずは事務局から配付資料の確認をお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

皆さん、こんばんは。よろしくお願いいたします。

まず、資料の確認をさせていただきます。配付資料、資料1から8となっております。今回、事前に配付の資料が直前の発送となりまして、付議資料がお手元に届くのが大変遅くなりまして、申し訳ございませんでした。今回またお手元に資料のほうは置かせていただいております。

資料1から8となります。資料1が「長期総合計画審議会の到達点・これまでの振り返り」、資料2が「今後の財政収支の見通し」、資料3が「答申の示し方」、資料4が「立川市第5次長期総合計画における基本構想（答申）（案）」、資料5が「理念・まちづくりコンセプト設定理由」、資料6が「立川市第5次長期総合計画基本構想骨格」、資料7が「第4回立川市長期総合計画審議会議事要旨」で、資料8が「第4回立川市長期総合計画審議会議事録」となっております。

資料のほうは過不足等ございませんでしょうか。よろしいですか。

(朝日会長)

ありがとうございました。

議事

1 報告事項

(1) 審議会のこれまでの振り返り

(朝日会長)

それでは、早速、報告事項のほうに入っていきたいと思います。

報告事項「(1) 審議会のこれまでの振り返り」について、事務局から御説明をお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

本日、マイクを用意させていただきましたが、発言のあるときだけオンにさせていただいて、それ以外はオフにさせていただければ。ちょっとハウリングする関係がありますので、よろしくお願いいたします。

まず、資料の1です。

1番では、本審議会の到達点といたしまして、これまで、この四角にありますように、「未来ビジョン」、「まちづくりコンセプト」、「政策」につきまして答申いただくという形を取っております。

2番におきましては、これまでの第1回から第4回までの内容を記させていただいています。前回（第4回）につきましては、次の10年間のまちづくりの大きな方向性といたしまして、まちづくりの方向性、「未来ビジョン」につながる考え方や、あとは政策分野から

見た都市像に生かす視点、そういったことを御議論いただいたところでございます。今回は第5回といたしまして、先ほど会長よりもありました、答申の示し方と、あとはこれまでの議論を踏まえた答申案といったところを事務局案としてお示ししてございますので、その案を踏まえて御議論いただけたらと思ってございます。それを踏まえて、第6回では、またその答申案について詰めてまいりたいと考えてございます。

資料1についての説明は以上となります。

(朝日会長)

ありがとうございました。そうですね。少し久しぶりということでもありますし、これまでの振り返りと、あと第6回、次回がもう答申案を出す回になりますので、今日はそれに向かっての御議論をいただければと思っております。

それでは、今いただいた資料1の御説明について質問等ありますでしょうか。よろしいですかね。

ありがとうございました。

(2) 今後の財政収支の見通し

(朝日会長)

次に報告事項の(2)に入りたいと思います。報告事項「(2) 今後の財政収支の見通し」、これについて事務局から御説明をお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

資料の2となります。これまで、基本構想10年間ということで、人口の動向等のほうはお示しをしてまいりました。今回、令和6年3月に、基本構想の下計画、基本計画を策定する上で必要となってくる財政収支といったものをお出しさせていただいたことがございまして、今回それについての御報告をさせていただきたいと思っております。

下のほうに「今後の財政収支の見通し」ということで、基本計画の計画期間、令和6年から11年度の財政収支の見通しお示しをしております。表の見方は、縦軸が、上半分が歳入、下半分が歳出という形になってございます。横軸が、令和6年(当初予算案)、令和7から11年度という形でお示しをしているところでございます。

まず、歳入の部分でございますが、市税につきましては、令和6年度の当初の歳入見込みが411億円だったところ、令和11年度には、今後の経済成長率等、また人口構成を見て、一定の税収の増が期待されているところでございます。そのほか、譲与税・交付金、国庫・都支出金、基金繰入金、地方債、その他収入となっておりまして、歳入合計としては、令和7年度が873億円で、5年後の令和11年度は906億円を見込んでいるといったところでございます。

その下が歳出でございます。歳出の内容といたしまして、大きく義務的経費、投資的経費、基金積立金、その他行政経費というふうに分かれてございます。特に人件費の部分につきましては、定年延長もありまして、金額がちょっとぶれていると。あと扶助費につきましては、年々高齢化によって伸びを見込んでいるところでございます。投資的経費、こちらにつきましては、令和7年、8年と70億円台ですが、令和9年度からは一気に100億円以上というふうになってございます。こちらにつきましては、以前もちょっとお話ししました、公共施設の建て替えが老朽化によって進んでくるといったことが見込まれていて、その辺の金額を投資的経費として見込んでいるところでございます。それらを踏

まえまして、大きく歳入、歳出ともそこを見込んでいるといったところでございます。

あと、差引額のところの下の方、財政調整基金各年度末残高、公共施設整備基金各年度末残高はいわゆる市の貯金に当たる部分でございますが、現在、令和6年度では財政調整基金各年度末残高109億、公共施設整備基金各年度末残高は205億円ですが、特に公共施設整備基金につきましては、先ほど言った投資的経費に備えるために基金を繰り入れ、崩していくということで、令和11年には半分近くまで減ることが見込まれているといったところでございます。

2ページ目、3ページ目でございます。こちらは、先ほどの投資的経費の内容といたしまして、令和2年から11年度の公共施設・都市インフラに関する費用の見通しということで、上が令和2年から令和11年の内容として示させていただいているところでございまして、上のほうが「公共施設の改修・建替（小学校・中学校・その他施設）」、下の半分が「都市インフラの維持・更新（道路・橋りょう・下水道）」といったところでの見込みということで、現在の計画に基づいた中でのあくまで参考値といった形でお示しをすると、こういった形が今想定されているといったところでございます。

こちらの今後の財政収支の見通しの説明については以上でございます。

（朝日会長）

ありがとうございました。これまで、今後の10年ということでこの計画について御議論いただけてきたところで、ちょうどその見通しが出ましたということで御説明をいただきました。この御説明について御質問ありますでしょうか。よろしいですかね。

ありがとうございました。

2 審議事項

（1）答申の示し方について

（朝日会長）

次に参りたいと思います。続いて、次第2の審議事項に入りたいと思います。2件ありますが、まず「（1）答申の示し方について」です。事務局の方から御説明をお願いいたします。

（渡貫企画政策課長）

資料の3でございます。まず、今回、「答申の概要（示し方）」ということでお示しをさせていただいております。一番上のところ、白抜きとなっておりますが、今回答申でいただくのは、これまでもお話ししたとおり、大きく「理念」、いわゆる未来ビジョンが上になっていますが、未来ビジョンを策定する上で根底となる考え方をまず理念として答申でいただこうと思ってございます。それを基に、未来ビジョンの網かけになっている部分、そこについてのキャッチコピー的なものにつきましては、最終的に皆様の答申を踏まえて市長が設定していくというふうになってございますので、この理念の部分をもまず答申として示していきたいと思ってございます。それを踏まえまして、下の真ん中のところで、まちづくりコンセプトでございます。こちらにつきましては、今回、これまで都市像と言っていたところでございますが、都市像と政策の部分がちょっと分かりにくいという部分がございますので、『未来ビジョン』の実現に向けた、基本的な自治体運営の戦略」として御議論いただけてきたといったところでございます。まちづくりコンセプトの名称も、今回、仮置きでこうさせていただいておりますが、それ以外のいいネーミングがありました

らば、御意見いただけたらと思っております。また、まちづくりコンセプト、いわゆる自治体運営の戦略の示し方につきましては、1つ目の括弧のところですが、例とありますが、【(例) ①政策の性格でまとめる ②政策の親和性でまとめる】ということで、今回2つの案をお示ししているところでございます。最終的には、これら未来ビジョンを実現するための分野ごとの政策、取組方針ということで、政策、取組方針、こちらも答申でいただくというふうになってございます。いわゆるこの資料3ですと、白抜きの部分が全て今回答申でいただく内容として考えているところでございます。なお、今回、政策の部分につきましては、今、政策分野を再度、議会等の意見も踏まえまして今調整中でございまして、次回こちらのほうについて主に議論を進めていただきたいと考えてございます。

なお、裏面の2ページ目でございますが、こちらにつきましては、ビジョンであったり戦略であったり、いろいろな言葉がございましたので、改めて事務局のほうで「目標」とか「戦略」とか「戦術」とか、いろんな言葉をちょっと整理し、参考に抜き出したものでございます。

こちら、資料3の説明は以上となります。

(朝日会長)

ありがとうございました。

本日御議論いただくところの内容にもなっておりますし、答申全体の構成というか、示し方にもなっていますが、今の御説明についての御質問ありましたらお願いいたします。よろしくお願いいたします。平澤委員、お願いいたします。

(平澤委員)

先ほど課長もおっしゃっていたように、言葉が結構いろいろ混在していますよね。今までの将来像というのが未来ビジョンということですよ。まちづくりコンセプトというのは都市像ということなんでしょうか。

(渡貫企画政策課長)

都市像ということです。

(平澤委員)

分かりました。ありがとうございます。

(朝日会長)

ありがとうございます。そうですね。これまでの議論で使っていた言葉と、どういうふうに当たるのかというところでした。ありがとうございます。

ほかには御確認、御質問ございますか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

(2) 答申書案について

(朝日会長)

それでは、本日のメインですね。今御説明いただいたまちづくりコンセプト、真ん中よりも下のところまでの白抜きのところ、1つずつ、基本構想策定、理念、まちづくりコンセプトという順番で、大きく議論をお願いしたいと思っております。それが次の審議事項になります。それでは、「(2) 答申書案について」、事務局から御説明をお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

こちら、資料の4でございます。本日、これまで皆様に御議論いただいたところを踏まえて、案を策定させていただいてございます。

まず、ページをめくりまして、左の「答申にあたって」です。こちらは最終的に会長の朝日先生のほうに御依頼、お願いしたいということでございます。

その右側の目次でございます。先ほど答申の示し方でお示しさせていただいたように、まず「1 基本構想策定における基本的視点」ということで、前回審議会で主に御議論いただいたところでございます。「2 基本構想について」ということで、4 ページ以降に（1）未来ビジョン（将来像）について、（2）まちづくりコンセプト（都市像）について、（3）まちづくりコンセプト実現のために（政策方針）となっております。

次に1 ページ目でございます。まず、「1 基本構想策定における基本的視点」でございます。こちらに書いてありますように、上段ですが、「令和47（2065）年までの将来人口推計から想定される社会環境を踏まえつつ、直近10年間の市政のあり方を示す上で、まずはその前提となる基本的な視点について本審議会で認識を共有しました。」といったことで示しています。今回、基本的視点といたしましては、前回御議論いただいた2つの視点、まずは、自治体が地方自治法上求められている住民の福祉の増進につながる「基幹的な市民サービスの方向性」、また、立川市の独自性につながる「立川市の特徴をどのように生かすべきか。また、どのような新たな価値を創り出すべきか」という点について、前回の御議論を踏まえて今回入れさせていただいてございます。

1 ページ目の「（1）基幹的な市民サービスの方向性について」。こちらにつきましては、前回の御議論の中で、1 段落目にありますように、『「基幹的な市民サービス」については、今後10年間、サービス水準は維持していくことに努めるべき、としました」というふうにさせていただいております。その後、2 段落目、3 段落目を経まして、一番下の行です。

「そのため次の10年の間にDXによるサービス転換を進展させ生産性を向上させつつ、本市の魅力を一層向上させ、人口流入を促進し地域の担い手を増やすと同時に、まちがもっと稼げる力をつけることが必要です」というような形でまとめさせていただいてございます。

続きまして、3 ページ目「（2）『立川市の特徴』をどのように生かすべきか。また、どのような価値を創り出すべきか」でございます。1 段落目と2 段落目につきましては、立川の特徴という形で述べさせていただいているところでございます。1 段落目の後段ですが、「多くの来訪者が訪れるやすらぎの自然環境を有し、都市機能と産業、自然環境が共存しています。」それから、2 段落目でございますが、2 段落目の後段、「いずれも交通結節点である利点を背景に、立川市に集まる多くの人々や市政に参画する市民など、人的資源が集まる点も特徴と言えます。」ということで、特徴を1 段落目と2 段落目で示しています。3 段落目ですが、「これらの立川市の特徴を生かすためには、都市機能や産業、自然環境といった資源やまちが持つ経済的価値をさらに伸ばしていくべきであり、シティプロモーションなどでその魅力をしっかりとアピールしていくことが重要と言えます」というような形でまとめさせていただいているところでございます。

続きまして、4 ページ目、未来ビジョンの今度は理念に当たる部分でございます。上段のところは、（1）未来ビジョン、（2）まちづくりコンセプト、（3）政策という関係性を示してございます。

中段のところ、「（1）未来ビジョン（将来像）について」というふうになってございま

す。今回、これまでの様々な御意見を踏まえまして、それらを審議会、市民ワークショップなどの意見を基にカテゴライズした場合、大きく4つにカテゴライズできるのではないかと整理させていただいています。1つ目が、4ページの四角のところに書いてありますように、「多様性・包摂性」、2つ目が「連携・協働」、3つ目が「主体性・独自性」、4つ目が「持続可能性」ということで大きくカテゴライズできるのではないかと考えてございます。最終的には、括弧の左に〇〇〇〇とありますが、この多様性・包摂性とかを市民に分かりやすい言葉で示すとしたらどういった言葉がいいかということをもた後ほど御意見いただきたいと思っております。例えば多様性・包摂性でいうと、優しさにあふれるとか、認め合うとか、そういった言葉に置き換えて、市民に分かりやすい言葉でなるべく訴えていきたいなと思っております。連携・協働ですと、つながるとか、共につくり出すとか、そういったことも出てくるのかなと思っております。なかなか持続可能性とかもちょっとありふれた言葉的なところがありますので、それを市民により分かりやすい言葉でできればいいなと思っておりますので、その辺についての御意見をいただきたいと思っております。

5ページ目には、それらのカテゴライズについての内容を示させていただいております。

続きまして、7ページでございます。こちらが「まちづくりコンセプト（都市像）について」、いわゆる未来ビジョン実現のための基本的な戦略として今回都市像を位置づけてございます。「案1、政策の性格でまとめる」でございます。8ページ目のほうが、「案2、政策の親和性でまとめる」案といったところでございます。こちらにつきましては、今回、案2のほうは、これまでの第4次と同じような形で、政策にちょっと近い形になってございます。

今回、案1はより戦略に近い形で、まずコンセプト1は、いわゆる市民サービスの基幹的なところの戦略で、コンセプト2がまちの価値、いわゆる先ほどの立川の魅力をどうアップさせるかといったところの戦略、3つ目が実際に自治体の運営、そういった行政組織の進め方の戦略、そういったところの区分けで考えてございまして、事務局といたしましては、これまでの第4次と一歩、戦略性をより際立たせたいということもありますので、案1ということで現在考えているところでございます。コンセプト1といたしましては、まず、「都市と自然が調和し、誰もが安心とやすらぎを実感し続けるまちづくり」。コンセプト2、まちの価値のところにつきましては、「集いにつながりにより新しい価値を創造し、挑戦し続ける魅力あふれるまちづくり」。コンセプト3、いわゆる自治体運営の部分につきましては、「市民に寄り添い、積極的な連携や改革により新たな時代を切り拓く、持続可能なまちづくり」、こういった形で一旦まとめさせていただいているところでございます。

8ページの親和性でまとめたものにつきましては、これはどちらで、どういうカテゴリーで切るかというのがありますけど、一旦、第4次の形のまとめた形でお示しさせていただいているところでございます。

9ページ以降につきましては、次回、改めて、これまでの議論を踏まえてお示ししてまいりたいと思っております。

そして、資料5でございますが、先ほどの答申案を事務局でまとめるに当たって、これまでの議論をまとめたものでございます。

ページをめくりまして、まず2ページ目でございますが、こちらは、基本理念の案を先

ほどお示した中で、これまでの審議会の意見、市民ワークショップの意見を取り上げてどのように結びつけたかといったところをお示ししています。特に2ページ目は「多様性・包摂性」の部分のこれまでの審議会の意見と市民ワークショップの意見を載せてございます。あと「連携・協働」の部分。3ページ目につきましては、「主体性・独自性」についてのこれまでの審議会の意見や市民ワークショップの意見。あとは、4ページ目が「持続可能性」についての御意見を踏まえたもので、参考になるところを書かせていただいております。

逆に、5ページ目以降でございますが、こちらは、「3. まちづくりコンセプト（都市像）案」をまとめる中で、どの辺がこれまで御意見としていただいたところということで、＜まちづくりコンセプト1＞【自治体共通】につきましては5ページから9ページでお示しさせていただいております。また、＜まちづくりコンセプト2＞【自治体付加価値】につきましては、10ページから12ページでこれまでの議論を集約させていただいております。＜まちづくりコンセプト3＞【自治体運営】につきましては13ページ目以降に、それぞれこれまでの議論を集約した内容を記載させていただいたものでございます。

15ページ目以降は【案2】の内容を、逆にこれを整理したものでございます。

あと資料6になりますが、基本構想骨格ということで、今回、資料6でお示しさせていただきます。理念が、未来ビジョンの周りにそもそも前提となる考え方として示した上で、未来ビジョン「〇〇〇〇～なまち 立川」、こちらはまだこれからですけれども、そういった形でお示した上で、まちづくりコンセプト＜戦略＞として、こういう形で見せていきたいと考えているところでございます。

こちらの説明につきましては以上となります。

（朝日会長）

御説明ありがとうございました。

主に第3回、4回のあたりでたくさんの御議論をいただきまして、これまでの御意見を取りまとめて、こちらの答申書案という形で事務局で作成したものにになります。それでは、項目ごとに御意見をいただきたいと思っております。具体的には、最初に基本構想策定における基本的視点、2つにまとめていただいております。それから、次に、資料3にありますように、理念1から4までそれぞれ順番に行きたいと思っております。その次にまちづくりコンセプトについて、示し方が2つ大きく案をいただいております。大きくこの3つについて順番にやっていきたいと思っております。

まずは、答申書を御覧いただいて、1ページから3ページにあります基本的視点ですね。「基本構想策定における基本的視点」についての御意見をお願いできればと思います。こちらは主に、第4回に審議会の意見を取りまとめて御作成いただいたものということとなっております。それでは、御意見よろしく願いいたします。

（平澤委員）

ちょっとよろしいですか。

（朝日会長）

はい。平澤委員、お願いいたします。

（平澤委員）

この理念とまちづくりコンセプト1、2、3とか、そのつながりというのがちょっと不明かな。どこかで示されているんでしょうか。

(渡貫企画政策課長)

先ほどの資料3のところに出しています。

(平澤委員)

実際にこちらの答申案のほうで、どういうふうなつながりがあるかというのはこれで分かるのかな。

(渡貫企画政策課長)

こちらについての基本的な視点、まず理念のほうですかね。こちらにつきましては、4ページのほうで関係性ということで答申案の中ではお示しをしていくというふうに考えてございます。

(平澤委員)

それで、この各理念、これ4つありますけど、この4つにまちづくりコンセプト1、2、3がどういうふうにぶら下がってくるのかというところ、そういうつながり方はしていないんですか。

(渡貫企画政策課長)

今回はあくまで理念につきましては、未来ビジョン、いわゆる将来像をつくる上での基本的な考え方といったところだったので、これから市長のほうで未来ビジョンをつくっていく中で、こういう考え方を大切にしてくださいよということを答申いただこうと思っております。まちづくりコンセプトのほうは、いわゆる未来ビジョンを実際にやっていく上での戦略を書いていくという形になります。そういったところで明確に分けていこうというふうに今回はしているところでございます。

(平澤委員)

この4つの理念の上に立脚して、全体的に、どれにどれをひもづけるとかということじゃなくて、この理念の下にまちづくりコンセプト1、2、3とかをやっていきたいと思いますという考え方ですね。

(渡貫企画政策課長)

そうですね。はい。

(朝日会長)

ありがとうございます。

ほかに御確認あるいは御意見ございましたらお願いいたします。ちょっとゆっくり見ていただいて、あまりもしかしたら事前に見る時間なかったかもしれませんので。

(平澤委員)

ついでに。

(朝日会長)

平澤委員、お願いいたします。

(平澤委員)

ついでに申し上げますと、恐らく、このコンセプトのつくり方二通り、性格でまとめるやり方と親和性でまとめるやり方で2つ案を出されていたかと思うんですけど、私としては、性格でまとめるほうがしっくりきます。それで、親和性でまとめるほうはどうも、子育て、教育とか、環境、都市基盤とか、こういったので分けられていますけど、中を見ると、どうもオーバーラップしていて、あんまりちゃんと分けられていない感じなので、それでしたら、性格でまとめるほうが、文章というか、そういったところがしっくりくるか

なと思っています。

(朝日会長)

ありがとうございます。まちづくりコンセプトの2案については後でも意見いただくんですけれども、もうちょっとそのところ、全体の構成にも、今御質問いただいたように関わりますので、それぞれの関係といいますか、流れといいますか。そちらのほうでも構いませんので、御意見いただければと思います。お願いいたします。長井委員、お願いいたします。

(長井委員)

すみません。視点ということだったので、どちらかというと(2)のほうは特徴をとということなんですけど、それだとやっぱり、「企業が相互に影響し合い」というふうになっているんですが、この文章ですとすごく、何かちょっと待っているような感じがあるので、もう少し推していけるような、外に向かってアピール、せっかくシティプロモーションなんかも実施されているので、そういうところももうちょっと、集めるぐらいな感じのほうがよりアグレッシブに大きく見えるかなとは思っています。すみません、文章の問題です。

(朝日会長)

ありがとうございます。次回もう答申案として、これでどうだというふうにいきますので、ありがたいです。ぜひそういう表現の部分も含めてお願いいたします。地域内で、要は影響し合って学ぶ、影響し合うというようなイメージになるけれども、確かに、今までの根拠のところも、立川発といいますか、国際的な視点もあったり、外に向かってというようなところの御意見も出ていましたので、そういったところの御指摘かなと思います。ありがとうございます。

ほかにはございますでしょうか。篠原委員、お願いいたします。

(篠原委員)

今回の答申については、サービスを維持するということが前提にある。サービスを維持することはもう大変なんだけど、維持するんだという前提なんですね。それは維持というのが目標ですか。何で維持というところで精いっぱいやっているんですと言えるかという、先ほど御説明いただいた資料2のほうの財政収支の見通しとかあるのだろうと。結局、何があるかという、例えば公債費が今後はどんどん増えていくみたいな話ですね。扶助費も、ほかの自治体に比べれば増え方は少ないと思うんですが、増えていくとか、要は、何で、維持ということが精いっぱいなんですということを言っている数的なエビデンスがないんじゃないかなという気がしているんですね。ページ数の制約はあると思いますけれども、厳しくなる財政状況というところはあまり皆さんぴんとこないんじゃないかなと思いついて、そうすると、やっぱり数的な何かを、こうなるとすごく厳しいんですよと言わないと、何で維持で精いっぱいなんですというところ、読んでいてぴんとこなかったのも、そこを補足いただけるともっと分かりやすいのかなと思いました。

(朝日会長)

ありがとうございます。確かに、最初にばーんとサービス水準維持しますというふうに出ているので、なぜ維持なのかというところですね。そこが少し分かりにくい、背景が少し触れられたほうがいいのかというところでした。事務局のほうから、どうしましょう。その次に、健全な財政運営に努めていきますというふうにありますので、そういう背景なんだろうなというのはあるんですが、そうですね。ここの表現について御検

討いただければと思います。

(渡貫企画政策課長)

はい。ありがとうございます。

(朝日会長)

ありがとうございます。

甲野委員、お願いいたします。

(甲野委員)

未来ビジョンの4つの案なんですけど、4つ目、持続可能性というところなんですけれども、持続可能性と普通言った場合、市としての持続可能性と地球環境とかもうちょっと大きな視点に立った持続可能性ということがあると思うんですね。当然ながら、これだけ今地球温暖化が叫ばれていて、政府の方針で地球温暖化対策推進プランが掲げられて、立川市としても脱炭素に向けて動き出さなければ、動き出しているところだと思うんですけども、その割には、ここに書いてあることが少し立川限定だなと。「今ある立川市の資源を未来へ責任持って、次の世代に引き継いでいくことを意識した行動と選択」って、いいと思うんですけど、これ、時代が変わって、我々の生活じゃなくて、次の世代のことを意識しましょうねと言って、これは世界的なコンセンサスを得て進められている議論なんですけれども、このところで、今ある立川の資源という、かなり限定されたところになっていると思うんですね。それだけでいいのかなというのが私の視点でございまして、立川市の環境でもいいです。もうちょっと、資源というすごく狭いんですけども、対象化されてしまっているようなことに私は捉えてしまうんですけども、もう少し大きな視点で書いて、示して、どうでしょうかという御提案をさせていただきます。よろしく願いします。

(朝日会長)

ありがとうございます。今、持続可能性のところで指摘いただいて、3ページのところにやはり、基本的視点のところにもあるんですね。3ページの下のほうに自然環境、立川の「都市機能や産業、自然環境といった資源」といった形で、こういった言葉の使い方をしているんですけども、ここにもちょっと関わってくるところかもしれないですね。ありがとうございます。この辺りの御検討、もし何か背景あればお願いいたしますし、御検討いただくということでも。

(渡貫企画政策課長)

はい。検討させていただきたいと思っております。

(朝日会長)

ありがとうございます。よろしくお願いします。

(平澤委員)

ちょっと今の点、いいですか。

(朝日会長)

はい。平澤委員、お願いいたします。

(平澤委員)

今の朝日先生おっしゃった3ページの下の辺りというのは、資源と書いてありますけど、「都市機能や産業、自然環境といった」という説明がついていますから、この資源という言葉にはそれほど問題はないかと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。このところの資源というところとはちょっと、持続可能性の言っている資源というところは違うということですかね。立川市の資源という限定はしていないというところですかね。ありがとうございます。

ほかにはございますか。お願いいたします。宮本委員、お願いいたします。

(宮本委員)

1 ページから 3 ページのところ、私は大変よくまとまっているなと思いました。これだけコンパクトに書いてあるのに、必要なことは全部盛り込まれていて、非常にすばらしいなと思いました。次回、答申案をもうまとめられるということですので、ちょっと細かいことを、全体的にはいいんですけども、細かいところで、3 ページの 2 段落目ですね。上から 7 行目ですか。「また、J R 立川駅北口には 109 のパブリックアートにより」ということで、ファール地区のアートについて示しているのは分かるんですけども、あれを立川駅北口と言っているのかなと。北口で間違いじゃないんですけども、もう少し何か的確な表現があるといいなと思いました。あまり変わらないですけど、立川駅北側、何でしょうね。もう少し何か。

それから、その 2 つ下の行ですね。「大きな可能性を秘めています」。プロスポーツについてですけど、秘めていますじゃちょっとかわいそうな気がいたします。もう芽生え始めているので、ここはもう少し積極的な表現を使ってもいいんじゃないかなと思いました。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。ここもあれですね、御検討いただける場所ですね。

(渡貫企画政策課長)

はい、こちらも。

(朝日会長)

おっしゃるとおりのところかと思います。ありがとうございます。

ほかにお気づきの点ありますか。

(福永委員)

すみません。

(朝日会長)

はい。よろしくお願いいたします。福永委員、お願いいたします。

(福永委員)

後ろ向きのことを言って大変申し訳ないんですけども、6 ページの持続可能性、先ほど先生のほうからお話ありましたが、持続可能性のところだけが、何行かあるうち 7 割ぐらいがネガティブな発言、表現が入っているということを考えると、これが理念ですよということであっていきにはちょっと、もうちょっと前向きな表現に換えられるといいのではないかなと思います。感覚的な意見になってしまって申し訳ないんですけど、言い訳が先にどんどん出てきていて、これって何だっけと見ると、未来ビジョンだよねというがあるので、そこはもう一度考えていただいてもいいのかなという気がします。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。この 4 つの位置づけですね。あたかも制約条件のようになって

しまっている、読めてしまうというところで、確かに、危機感の表れではあると思うんですけども、持続可能性という言葉とか概念自体は、先ほども御意見あったように、もう少し広い意味あるいは大きな意味、前向きな意味、可能性というものがあるという御指摘かと思います。ありがとうございます。

(川口委員)

ちょっといいですか。

(朝日会長)

川口委員、お願いいたします。

(川口委員)

私は、読ませていただいて、1 ページ目の基本構想策定における基本のところの「(1) 基幹的な市民サービスの方向性について」と「(2) 『立川市の特徴』をどのように生かすべきか。また、どのような価値を新たに創りだすべきか」についてなんですけれども、いろんな御意見があるんだろうけど、私が感じたのはやっぱり、今まで、第4次においては人口減を前提とした発想だったのを、そうではなくて、それは維持する。産業、労働人口的なものの構成比は変化するかもしれないけれども、やっぱりその人口は立川市としては維持しつづいきたいと思いますというところが基本になっているのかなと感じました。それを維持するための基本的な市民サービスを維持していきましょうという思いがここに込められているんだろうなと理解しました。それを実現するためには、立川市の特徴をどう生かすかにつながるという文脈なんだろうと思って、そこがどれだけ人を集め、それが相互に影響し合い、イノベーションを起こせるかとか、ここにおいての都内23区と同等の労働環境をつくれるかというところだろうと思います。この(1)、(2)の部分というのは非常に私にとっては納得感があります。

(朝日会長)

ありがとうございます。御意見ありがとうございます。

お願いいたします。片岡委員、お願いいたします。

(片岡委員)

2 ページのところに「健康寿命を伸ばし」と書かれているんですけども、健康寿命を延ばすためには、やっぱり医療、医療DXという言葉があるんですが、医療DXを生かして病気を重症化させないということが重要だと思うんですね。医療DXを考えるとということと感染症ですね。感染症というのはちょっとここに入れにくいんですけども、そういったものの対策をしているような言葉もちょっと欲しいかなと思っています。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。DX、1 ページの一番下のところにありまして、いろんな分野に関わってくるところなんだけれども、医療DXのところというのは非常に大きなところでもありますので、そのこのところの御指摘ですね。それから、あとは、そうですね。感染症というところがあったので、その健康、あるいは、感染症はちょっと危機管理のようなところもありますよね。そういったところも、どこで言及すべきかというところの検討が必要かなと思います。御検討をお願いいたします。

ほかにはございますでしょうか。よろしくお願いいたします。萬田委員ですね。お願いいたします。

(萬田委員)

2 ページの一番上段でございますけれども、「本市の魅力を一層向上させ、人口流入を促進し地域の担い手を増やすと同時に、まちがもっと稼げる力をつけることが必要です」という、この稼げるというのは意味がどういう意味なのかと思うんですけど。

(朝日会長)

ありがとうございます。これは事務局のほうで、表現の御説明お願いできればと思います。

(渡貫企画政策課長)

たしか前回、森林委員のほうで主にこういった表現を使われていて、そのままの表現を使わせていただいたというところがあって、本当にそこの中で経済サイクルが回っていったところを立川市としては特徴としてやっていったほうがいいんじゃないかというようなお話もあったことを踏まえて、そのまま文言を使わせていただいたところでございます。

(朝日会長)

ありがとうございます。森林委員の御発言もありましたし、昨今の政策として、地方創生の政策で、稼げるまちづくりというようなキャッチフレーズが多用されているところもありまして、イメージとしてはそういったところが浮かぶところなんですけど、確かに表現として、稼げるというところだけ見ると思います。萬田委員、どうでしょう。そこからどうという印象を受けられているのか、御意見あればお願いいたします。

(萬田委員)

そうですね。稼げるというのは、儲けるとか、そういう意味もあるので、税収を増やすこともあるだろうし、それから、商店の皆さんや企業の皆さんがいろいろと事業を充実・発展していくことによって景気をよくするということもありますけれども、稼げるというのはあまりいい意味、いい言葉ではないかなというふうに感じられますけど。

(朝日会長)

ありがとうございます。意図としては、森林委員と萬田委員がおっしゃったところと事務局の御説明、多分一緒だなと思いますが、確かに、10年この計画がもつことを考えると、今の地方創生で使っている言葉というのもしかししたら言い換えたほうがいいかもしれないですね、ベーシックな言葉に。ありがとうございます。

平澤委員、お願いいたします。

(平澤委員)

一つの案ですけど、「利益を生む」とかというのはきれいかなという気がします。

(朝日会長)

ありがとうございます。この辺りも、表現もいただきましたので、御検討をお願いできればと思います。

(渡貫企画政策課長)

ありがとうございます。

(朝日会長)

ほかにはありますでしょうか。

では、次に答申書の4 ページから6 ページに移りたいと思います。「未来ビジョン（将来像）について」に進みます。ここでは、先ほど御説明ありましたように、市が未来ビジョ

ンを策定するに当たって重視すべき理念として、この審議会で答申すべき内容がここに挙げられるということになります。これまでの審議会、市民ワークショップ等の意見を反映して事務局には御作成いただいたと、御説明があったとおりとなります。4つの理念、作成いただいたということになっております。本日はこの4つの理念を表す言葉、答申書の〇〇〇〇の部分です。1つは、ここに、どういう分かりやすい言葉がいいのかという案、アイデアをいただきたいというのが1つです。それから、先ほどからいただいていますように、この理念の内容について、こういった修正が必要じゃないか、あるいは、こういった印象を受けますということ、確認などいただければと思います。大きく、〇〇〇〇についてのアイデア、あと中身についてということをお願いいたします。もうこの4つのどこでもいいんですけども、まず、取りあえずガイドとして1つずついただいているとは思いますが、最初の多様性・包摂性のところの御提案ですね。文章の表現のほかに、それから言い換えの表現について御意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

(平澤委員)

よろしいですか。

(朝日会長)

はい。平澤委員、お願いいたします。

(平澤委員)

ちょっと質問なんですけど、この〇〇〇〇のところって、何文字ぐらいですか。文章なんです。それとも単語なんです。

(渡貫企画政策課長)

市民に分かりやすいといった中では、ワンセンテンス的なまとまりがいいかと思っています。文章になるとやはり理念としては伝わりにくいと思っていますので、数文字程度で、4文字ぐらいで表せられれば一番市民に対しては伝わるのかなと思っています。

(平澤委員)

ワンセンテンスということですね。そうしましたら、このコンセプトの中にある、「お互いに支え合い、誰もが安心して暮らせる」というところがいいんじゃないかなと思います。

それで、この内容のところ、性別、年齢、障害の有無というところなんですけど、私は前から懸念しているんですけど、外国の方ですよね。国籍が日本でない方の例えば社会保険とかどうなんですか。立川市から出す形になりますか。

(渡貫企画政策課長)

外国の方の社会保険料といったところですか。国民保険に入ってください形にはなっています。

(平澤委員)

例えば子ども支援だとか助成金がありますよね。そういうのもこういう方に出す形になりますよね。国籍違う方は立川市に税を落としていただけるんですか。

(渡貫企画政策課長)

立川で働いていても、どこで働いていても、税金ということは日本国内で働く場合については納めていただくというふうになっていますので、立川市に入ってきます。

(平澤委員)

そういうことでしたら大丈夫です。現在、多様性という言葉がかなり社会の中で使用されていますが、この辺、ちょっと熟慮した表現にさせていただければなと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。いろいろな面がありますね。そういった税金、保険の面もありますし、交流によって何か生まれるという面もありますし、いろんなところが含まれてくるところなので、ここの書きぶりというところは、御指摘のとおり、大事なところかと思えます。

お願いします。福永委員、お願いいたします。

(福永委員)

すみません。今平澤委員からもありましたが、これ、ワンワード、ワンセンテンス、文章になるんですか。例えば、今ちょっと見ていまして、「多様性・包摂性」のところなんかでも、例えばワンワードでいけば、思いやりとか思いやるという言葉が市民ワークショップの中から出てきているんですね。あと、「連携・協働」のところについても、つながるとか、「主体性・独自性」のところにもやはり参考になる言葉が出てきている。「持続可能性」のところだと、未来を考えると、非常に分かりやすい表現を市民ワークショップの方がしていただけているという、この辺をちょっと参考にすると、一つの言葉になりますよね。ワンワード的なものになるんですけど、そのほうがいいのではないかなという気がします。

以上です。

(渡貫企画政策課長)

そうですね。ワンセンテンスはちょっと長いので、今おっしゃられたように、ワード。先ほど少しお話ししましたが、今御紹介あったように、認め合うだとか、優しさにあふれたとか、そういったちょっと短い言葉で表していただいたほうがより伝わるのかなというふうには事務局としても考えております。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

田所委員、お願いいたします。

(田所委員)

分かりやすくするという、そのことが本当に必要なのかなと思いました。何ととっても、10年先を考えたときに、今ある単語が市民性を持ってこれから先、「多様性・包摂性」というのは、それだけで分かってくれる時代が来るんじゃないかという感じがして、むしろ分かりやすくすることによってぼやける。何でも、市民に一番分かりやすい視点ということよりも、まさにこのビジョンを体現する言葉を、分かりやすい分かりやすすくないじゃなくて、一番適当だと思うのでやっちゃってもいいのかなと思っている次第でございます。

(朝日会長)

ありがとうございます。

(福永委員)

すみません。質問です。

(朝日会長)

福永委員、お願いいたします。

(福永委員)

今お話あったとおりで、この括弧書きのところというのは残すんですか。〇〇〇〇だけになるんですか。

(渡貫企画政策課長)

そうですね。一応、〇〇〇〇だけで伝わるのかどうかというののもちょっと、見た感じでニュアンスが伝わるかというのがあるので、一旦〇〇〇〇として、括弧でお示ししたいと思っています。〇〇〇〇だけで伝わるようだったら〇〇〇〇だけにしますし、ちょっと括弧があったほうがいいよとなれば併記します。今、事務局としては併記で考えてはいるところでございます。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。ぼやけちゃうという御心配ですね。御意見2つありました。

ほかにはお気づきの点あるいはアイデアございますでしょうか。お願いいたします。長井委員、お願いいたします。

(長井委員)

こういうふうにいっぱい書いちゃうと際限がないので、ちょっと浮かんただけなんですけれども、要するに、人というカテゴリーでくくってしまう。全ての人というような感じで、例えば集まってほしいわけなので、何かをして、全ての人が集うとかいうような感じで、後段に何か、例えば安心・安全だったりするのかと思うんですけど、そういうふうなもののほうが見やすいし、結構こういうところは今ちょうど世の中で取り上げられていることなので、逆に皆さんが関心を持ちちゃうので、あれがない、これがないとかということで表現になっていくと、それはそれで問題になってきちゃうので、もう少し包括的に何か、あまり大きくてもいけないのかもしれないですけど、そのぐらいのカテゴリーだったら、人というのは間違いなく人なので、動物まで考えるのであればまたちょっと違うんですけど、人だと思えますから、その辺のところで収めたらどうかなと思いました。

(朝日会長)

ありがとうございます。これ、今のは多様性のところということですね。

(長井委員)

多様性、はい。

(朝日会長)

ありがとうございます。

ほかに御意見ございますでしょうか。宮本委員、お願いいたします。

(宮本委員)

私、この括弧書きの部分、端的に表現するのがむしろ分かりやすいのかな、的を射ているのかなと実は思っていたものですから、どうもそれをやわらかく、市民に分かりやすくというのは分かるんですが、そうすると何となくぼけてきちゃうような気がしてしまっています。とはいいつつ、確かに、漢字で何とか性、何とか性と連発されても、それはそれでちょっと苦しい部分があって、非常に悩むところはあるんですが、もし私がこれをやわらかい表現に換えるならどうするかなとちょっと考えたので、①は「誰もが尊重される」だと思いますし、②は「共に支え合う」だと思いますし、③番は「可能性に挑戦できる」、④番は「安心できる未来へ」、そんな感じなのかなと思いました。自分でつくっていて、ちょっとぼけてきたかなという気もするので、これを書いて、なおかつ括弧書きも残すとか、

そんな感じがいいのかななんて思いました。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます、4つとも案をいただきまして。括弧書きでこの何とか性とか、それを残すというのは多くの御意見ですね。やはりここ、的確に示しているので、ここは残したほうがいいという御意見ですね。

福永委員、お願いいたします。

(福永委員)

すみません。理想なんですけれども、このいわゆる答申のつくり方として、基本、未来ビジョンからまちづくりコンセプト、政策、具体的施策となると思うんですけど、今話していることというのは、結構いろんなカテゴリーのことを皆さんされているような気がするんですね。ですから、未来ビジョンであれば、曖昧であっても、そこから具体的に落とし込んでいくという考え方でいけば、括弧書きのところ、どこの部分に、政策のところに入ってくるのかは別ですけども、未来ビジョンとかまちづくりコンセプトはいわゆる人の目を引くような表現、これ何だろうと思いつつ下を読み進めていくと、その具体的な内容が書かれているというふうなつくりにするというぐらいでいいんですかね。じゃないと、多分、未来ビジョンとかまちづくりコンセプトのところからこちらの定義の内容をざーっと入れていかないと皆さん理解できませんよねということになってくる可能性もあるんじゃないのかなという気がします。このつくり自体でいくと、どうしても人によって捉え方も違う。今皆さんもお話しされていたように、捉え方の違う表現、言葉というのが出てくるので、ある意味、重要な言葉は言葉の定義的なもの、いわゆる定義というのは立川市が考える言葉の定義。先ほどの性別云々云々というところもそうだと思うんですけども、そういった定義的なところの説明というのもある意味入っていったほうがいいんじゃないのかなと。読み進めるうちに何かほわっとしてきってしまうというイメージがあるので、その辺ちょっと、もし考えられるのであれば、そういう方法もあり得るのかなという気がします。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。大事なところですね。資料6で先ほど御説明いただいたように、最終的にどういったところでこの用語が使われるのか、表されるのかというところで、どういう役割をここで考えているキーワードが持っているのか、フレーズが持っているのかというところになりますので、語義をはっきりさせるような、定義していくような段階というのはどの辺りなのかというところですね。その辺りについて、もし今の段階でお答えあれば、お願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

今言った定義といったのは、未来ビジョンのうちの理念とかの言葉についてのお話なのか、どの辺の部分の、ちょっともう一回確認したいんですが。

(福永委員)

ある程度定義が必要なものというのは、具体的に落ちてきたときに必要になってくる。ですから、未来ビジョンですとかまちづくりというところはある程度キャッチーなところで、先ほど出ていたようなところで、括弧書きが必要であれば、そういうのも受け入れら

れるとは思うんですけれども、じゃあ、「連携・協働」って何なの、「主体性・独自性」って何なのとか、言葉だけで言ってしまえばですね。あとは、例えば先ほどもちょっとお話出ていたように、多様性というのを立川市のほうとしてはこういう捉え方をしているんですよという、言い切れる部分、言い切れない部分はあるかと思うんですけれども、そういうのもあっていいんじゃないのかな。じゃないと、読んでいて、なかなか意味が頭に入っていない気がします。きれいな言葉がすごく並んでいるので、表現としてはこれでいいかと思うんですけれども、もうちょっと、下に行くに従ってという私はつもりです。ですから、未来ビジョンとかまちづくりコンセプトのところに定義がどうのこうのとか入れる必要はないのかなというふうに思います。そこは夢を語っていくところ、今後の希望と夢を語る部分かなと思います。

（渡貫企画政策課長）

最終的に基本計画とか、基本構想もそうですけれども、その用語のところの解説というのはつけていく予定ではいます。どこまでの粒度でその定義をやっていくかというのはちょっとまだ詳細に詰め切ってございませんが、計画の具体的な落とし込みに当たってにつきましては用語の定義というのは別途示していくということは考えてございます。

以上でございます。

（朝日会長）

ありがとうございます。福永委員の御理解のとおりというところでいいですね。この段階では、受け止め方はいろいろになるけれども、示すことはせず、もうちょっと計画の段階でということになるであろうということです。ありがとうございます。

そうしたら、ちょっともう次にどんどん行きたいと思うんですが、「連携・協働」の辺り、それから「主体性・独自性」ですね、5ページ。ここの辺りの表現あるいはアイデアについて、分かりやすいフレーズがあればというところで御意見いただければと思います。引き続きお願いいたします。

（松浦副会長）

じゃあ、よろしいですか。どうも、松浦です。

（朝日会長）

松浦副会長、お願いいたします。

（松浦副会長）

②③④まとめてという感じになりますが、④の「持続可能性」はもう十分、一般的に理解できるものだから、持続可能性でいいのかなと思っちゃったりするんですけれども、これ以上分かりやすくすると、逆に、こちらと持続可能性、マッチしていないんじゃないかという形になったりしますし、そうですね。個人的には、それぞれいろいろとキャッチーなアイデア、なるほどなと思いつつも、でも、やっぱり、この〇〇〇〇のところと括弧のところ、必ずしも一致しないところもある。それはそれでいいんだという考え方もあるんですけれども、やっぱり、そうですね。十分に、何ていうか、括弧の中だけでもいいのかなというぐらいに思っているんです。ただ、〇〇〇〇のところでもさらに分かりやすいものがあれば、それはそれで特に問題はないんですけれども、持続可能性だったらもう持続可能性でいけちゃうんじゃないかなと個人的には思いました。

（朝日会長）

ありがとうございます。括弧書きへの支持が大きいですね。意見がありますね。

ほかにございますでしょうか。

(大塚委員)

すみません。

(朝日会長)

大塚委員、お願いいたします。

(大塚委員)

委員の立場と事務局側の代表という立場で、非常に私のほうで発言がしづらい部分があるんですけども、ちょっと考え方だけ一旦お示しをさせていただければと思います。基本的には括弧書きのところで全て伝わるのかなと思っているんですけども、ただ、10年間という形で、これ、諮問していただいたものを答申という形で、これが実際にそのままというより、最終的には市長のほうの決断でどういうものにしていくかというところがあると思うんですけども、基本的にはこの形を10年間というふうなものにするためには、この括弧書きの部分プラス何かちょっとインパクトがあるというか、少しイメージがあるというところを何か表現できれば、それが一番、形としてというか、これは見せ方の問題なんですけれども、表現自体、考える理念としては、この括弧書きで今書いてあるものがもう基本的には理念というふうに思っていたいただければと思います。ただ、ちょっと、何かつくる上で少しインパクトがあるといいますか、そういったような表現というものが入ってくるとよりいいかなというのが事務局側の御提案している内容で、そこが、この多様性のところであれば、先ほど言っているように、誰もが安心して、認め合いながら、暮らしやすい、そういったことであれば幸せになれるみたいな形の表現がここから出ればいいのか。そこがなかなか決まってこないところがあるので、これは今日皆さんにいただいた意見をまた踏まえつつ、事務局として少し提案させていただければなと思っています。

ただ、③「主体性・独自性」のところ非常に、独自性を生み出して、次代をリードするまちというところで、やはり先ほどから言われているように、挑戦したり、何か創造したりというところで、これからの10年に向かって立ち向かって何か挑んでいくんだみたいなところを少しメッセージとしてここは出せば非常にいいのかなと思っています。

④「持続可能性」というのは非常に言葉が今どこでも使われて、今、松浦副会長がおっしゃったように、誰もが分かる持続可能性ですよというところがあるんですけど、これも、ただ、センテンス、文章の下から2行目の部分から書いてあるんですけど、「次の世代に引き継いでいく」、ここのところの行動を取っていく。次の世代に引き継ぐというところの表現を何か入れ、持続可能性ですと永遠に続いていくというところがあるんですけど、この10年、次の世代に残していくという何かメッセージ性のあるものが分かったと非常にいいかなというふうにちょっと事務局としては思って、そういったものを皆さんの意見を踏まえて作り込んでいきたいなと。

ちょっと感想めいたことで申し訳ありません。そんな考え方を今持っているところでございます。

(朝日会長)

ありがとうございます。フレーズの役割も含めてですね。

福永委員、お願いいたします。

(福永委員)

すみません、先ほど言ったのは、市民ワークショップというのが、1年ぐらいですか、

やられていて、そこで、そこからピックアップされた表現というのがここにちょっと出ている。これをさらっと見ただけでも、これいいねという表現、例えば、先ほども言いましたように、ありきたりであろうが、これ何だろう。例えば「主体性・独自性」のところでいくと、一番上にA班さんで、「あの立川」。「これ、どういう意味？」というような。これはコンセプト、「主体性・独自性」ということで、その内容がその下に書かれているみたいなイメージになるから、もうちょっと現実的な単語を入れたほうがいいのかということですね。だから、要は、市民ワークショップで長らく話し合いをされて、いい表現が随分出ているんでしょから、単に参考ではなくて、そういうものを取り上げていくのも1つじゃないのかなという気がします。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。市民ワークショップでは、キャッチフレーズを考えていただいて、本当に熟慮いただいているんですね。同感です。

ほかにございますでしょうか。平澤委員、お願いいたします。

(平澤委員)

1つ、ここに書いてあることで言葉を考えてみましたが、②「連携・協働」のところは、「互いに連携した安心できる暮らし」というような形で書いたらどうかなと思いました。それから、③「主体性・独自性」については、「独自性を持って時代をリードする」というような文言が入ればいいのか。それから、④「持続可能性」についてはこのまま、「持続可能な社会を構築する」とか、そういった言葉がいいかなと。先ほど意見に出た、次の世代に責任を持つてというところ、文言が入ったほうがいいというところがありましたけど、持続可能というのは次の世代だけじゃないですので、ここにとどめないほうがいいかなという気がします。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

ほかには御意見ございますでしょうか。

個人的な意見として、まとめの言葉が、この文章ですね。すごくコンパクトながら、いい表現でまとめているなとは思いますが、その中から言葉を拾ってということももちろんいいんじゃないかなと思いますし、市民ワークショップのところももう一回振り返ってという御意見ももつともかと思えます。先ほどの役割からいうと、未来ビジョンになるに当たって、この概念はもちろんなんだけれども、ある意味目を引くというような、そういった役割も担うということになると、言い換えというところもあるんじゃないかと。そういう意味では、あまり難しく考えなくてもいいというようなところもありますよね。ここにある言葉で十分なものもありますでしょうね。

個人的には、多様性とか連携とか持続可能性はもう皆さんの言ったとおりだなと思ったんですけども、「誰もが」とか、「支え合う」とか、「つながる」とか、あるいは将来ですよ。未来、将来」という言葉が入っていればいいんじゃないかなと思ったんですけど、③「主体性・独自性」が結構難しいなと思っていました。次世代につながるような、「チャレンジできる」とかいうところ、「新しい価値」というところですね。なかなかここは、ちょっと見ただけでぱっと分からないところが少しあるなとは思いました。③「主体性・

独自性」の一番下に「他とは異なる独自性を生み出し」というところがあって、それはそれで非常に立川らしさ、地域らしさいうところもそうなんだけど、一方で、②「連携・協働」というところも、市内だけの連携・協働じゃなくて、ほかの地域との協働ということももちろんコンセプトのほうに入っていますし、そういった意味で、主体性・独自性というところも何となく、競争的というか、そういう印象じゃないのがいいなとちょっと思ったところです。

ほかに皆さん、何かコメントなりお考えのところあれば、お願いいたします。よろしいでしょうか。そうしたら、事務局のほう、どうでしょう、何かキーワードについて。

（渡貫企画政策課長）

キーワードについて、また次回、これまでの御意見を踏まえて、お示しさせていただきたいと思います。

（朝日会長）

分かりました。今までいただいた考え方も含めてのところの御意見いただきましたので、そういった形でお願いできればと思います。それから、また、ちょっといいの思いついちゃったとかいうのがありましたらぜひ事務局のほうにお伝え願えればと思います。よろしいですか。

それでは、この未来ビジョンのところのキーワードと中身について御確認いただいたということになりますので、次に移りたいと思います。次は都市像ですね。答申書案の基本構想についての中の「(2) のまちづくりコンセプト（都市像）について」のほうの検討に進みたいと思います。まちづくりコンセプトについては、「案1 政策の性格でまとめた」もの、それから「案2 政策の親和性でまとめた」ものと2つ案をいただいております、既にもう御意見も、案1がいいんじゃないかというような御意見もありましたけれども、改めてここについて御意見をいただければと思います。文言、内容、それから、どちらの案がぴんとくるかということについて御意見いただければと思います。

西内委員、お願いいたします。

（西内委員）

西内です。

私は、「案2 政策の親和性でまとめる」という案のほうに賛成します。理由は、子どもというキーワードが中心に出てきたというのは、この社会をこれから支えていくのは今の子どもたちだと思いますので、子どものキーワードが出てきたほうが私は魅力的だなと思いました。

以上です。

（朝日会長）

ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

すみません。私のほうでちょっと思ったことを申し上げたいんですけども、案2のほうですね。これが、ある意味、総合計画をつくる上で都市像といったときに、これまで割と多いタイプだったんじゃないかなと思います。いろんな自治体でですね。というのは、この資料3でお示しいただいたところの政策、あるいは、ひいては資料6でいただいたような長期総合計画として落とし込んでいくときに、行政のどの部署がどういうふうに行っていくかという、既存の施策あるいは組織にある程度落とし込みやすい形というのが標準、

多かったというところがあるんじゃないかなと思います。一方、こういった案1のようなやり方というのはそこから少し、戦略という意味で、本当に上位に少しずれたような印象が私にはありまして、じゃあ、それをどうやってやっていくのかというところに対して、少しメッセージとしては、私の解釈では、その下に来る、これを実現するための組織なり何なりといったところをもう少し柔軟にやっていくんだというようなメッセージがあるようにちょっと思っています。ですので、もしそういった解釈なのであるならば、こういった示し方というのは、案1は分かりやすくいいんじゃないかと思う一方、今御指摘あったように、例えば子どもであるとか、自然とか、そういった具体のところ、政策としてどういうふう to 実現していくんだらうかというところが少し見えたほうがいいかなとは思っています。それはここで示す役割ではないのかもしれないんですけども、それはまた別途説明があるということなのかもしれませんが、そういうふうに思います。ちょっと皆さんの御意見の中では、長くしゃべっちゃって申し訳ないんですけども、時代も変わってきて、いろんな課題が、先ほどもありましたけれども、多様性、国籍といったところ、外国人といったところでいっても、いろんな多面的な問題が出てきて、1つの部署とかそういうところでは難しくなっているという意味では、少し上位のコンセプトでこういうことをやるんだと言っておいて、それを実現するためにはと落ちていくほうが、時代に合って、いろんなやり方でやりますよというふうなメッセージですね。柔軟にやっていきますというようなメッセージに受け止められれば、そのほうがいいんじゃないかなとは思っています。一方、先ほどあったように、キーワードとしてカバーされていないんじゃないかと思うところも大事なところですね。そこもきちんと示していかなければいけないなと思います。そのちょっとせめぎ合いのようなところがあるんじゃないかなと思います。

福永委員、お願いいたします。

(福永委員)

すみません。案1、案2ということでまとめて、最初に性格でまとめるということで事務局のほうでつくっていただいて、こういう区分、カテゴリーに分けたというのは、そこに何か事務局のほうで考えがあったんでしょうか。一番最初に案1と来ているのが性格でまとめるというところだったんですけど、その説明があればと思います。

(渡貫企画政策課長)

こちらの資料3の裏面をちょっと見ていただきたいと思います。自治体運営の目的から目標、戦略、作戦、戦術という、より下に行くほど具体性を持ってやっていくというような考え方があります。これまでの第4次までは、戦略とその下の政策が非常に分かりにくい体系になっていましたので、今回は、先ほど子ども云々とありましたが、そういったところは政策に落とし込んでより具体的にやっていく。そのための上位の戦略、ここにありますが、そういったものを上位の形で考えてあげて、持っていこうということが今回の第4次と第5次の大きな差となっております。そういった形の示し方に今回はしていきたいというのが事務局の考え方でございます。

以上でございます。

(福永委員)

その説明をいただくと、何となくこのつくりが分かる気がする。ただ単に案1、案2だけでは、どっちか選べよというふうになってしまうので、やはり、より下に行くほどより具体的にという感じで、今までと違ったやり方ということであれば、案1というのもあり

得るのかなということを、御説明を聞くとします。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

松浦副会長、お願いいたします。

(松浦副会長)

そうですね。今までの議論、初めに伝わったのが、未来ビジョンとかまちづくりコンセプトと政策の関係がちょっと分かりにくいみたいな話があつて、自分も初め分かりにくいなと思っていたんですけども、ただ、たしか川口委員がビジョンのところ、基本視点のところでやっぱりポイントというのが2ページ目の、「人口流入を促進して地域の担い手を増やす」ということで、稼げる力という言葉がどうかは別にして、ある種の活性化みたいな形で、そこで付加価値を生み出していくということで、その中に具体的なものとして、子育て施策に力を入れる、この辺がポイントなんだろうなと思ひまして、そして、ただ、その後、このビジョンというのが、例えばまちづくりのコンセプトとかのところでちょっと見えにくいところがあつて、ビジョンのところで、そこがやっぱりポイントというところであるのであれば、こういったものを具体的に落とし込んでいくという形にもう少し反映させていくという、コンセプトのところも反映させていくということにすれば、案1であっても案2であっても、案2のほうが確かに子育てというのが前面に出ていて分かりやすいかもしれないけれども、案1のほうがでもそういった子育てみたいなのところも、もともとのビジョンのところを具体的に落とし込んでいくというところで何か反映させることによって、案1でもそういったところが見えやすくなってくるのかな。さらに具体的な政策となると、やっぱり筋が通ってくるのかなと思ひました。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。

長井委員、お願いいたします。

(長井委員)

すみません。ちょっと私の理解の問題かもしれないけど、そもそもどちらか、性格なり親和性に分けなきゃいけないのか、例えば立川市さんなんかでも、こっちの課がやっていることをこっちの課が知らないことも結構あるので、それよりも横断的にやれるほうがいいと思うので、基本的には性格でまとめたほうがいろんな意見が出てくる。同じようなことを別の課でやっていたりするので、それはすごくもったいないので、それよりもオールラウンドで一本でやれたほうが、予算的な問題もありますし、そういうところは受け止められるのかな。ただ、どっちか選ばなきゃいけないとすれば、性格のほうがのかなと思ひますけれども、ただ、先ほど西内委員がおっしゃっていたように、例えば子育ての件なんというのは最重要課題であつたりするので、それはそれでしっかり受け止めて、その中に、先ほどどの委員かがおっしゃっていましたが、落とし込んでいくというのも一つの方法論なのかな。選ばなきゃいけないのであれば性格ですし、ただ、そういうのをミックスしてもいいのであれば、そういう考え方もあると思ひます。

(朝日会長)

ありがとうございます。

今のお話にも関連してますけれども、先ほど事務局から御説明があったところなんです、戦略というものは少し上位といいますか、そういった形に位置づけられるものなんです、そこのところの必要性についてどこかで説明があるといいのかなと思います。今お話がありましたように、政策の親和性という、こういうところに落とし込んでいくところというのは必ず必要になってくるわけですが、なぜこういった性格でまとめるといったところのメリットがあるのか、あるいは親和性でまとめるというところはそれに対してどういうふうに位置づけられるのか、落とし込むといったところが今ありましたけれども、政策の性格のほうはよりシンプルになっているわけで、であれば、こういうふうにした心といいますか、そこのところがどこかで説明されればいいのではないかとちょっと思うところですね。御意見ですね。

ほかにありますでしょうか。田所委員、お願いいたします。

(田所委員)

次回、政策方針というやつが事務局のほうから出てくる。それを見ると多分、つながりのところがより分かってくるのかな。今そっちが見えていないから、余計、性格か親和性かで迷っちゃうんだけど、その後の政策方針のところが出て、かつ、その前の段階のまちづくりコンセプトのところとどういうふうにつながってくるのかが分かれば、もうちょっと今のところが分かりやすくなるんだろうなと思います。これ、次回ちゃんと分かる人は分かるんじゃないかなと思いますので、そのときに意見がある方は言えればいいのかなと思いました。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。おっしゃるとおりですね。今日対象になっていない政策にどういうふうにつながってくるのかというところが見えていない状態なので、ちょっと議論しにくい、イメージしにくいところがあったかと思うんですが、御指摘ありがとうございます。

甲野委員、お願いいたします。

(甲野委員)

性格と親和性というので、私が解釈したのは、親和性のコンセプト1と2が性格のコンセプト1に包含されていて、コンセプト3と4が性格のコンセプト2に包含されているんじゃないかなというふうに。子どもがないという指摘でしたけど、コンセプト1を見ると、最初のキーワードには出てこないんですけども、文章を読むと、「未来を担う子どもたち」としっかりと入っているんで、私はこっちでも、性格でも問題ないのかなと。ただ、やっぱり、より具体的な表現というのは欠落してはいけないと思いまして、環境ワンイシューで大変恐縮なんですけれども、例えば性格でまとめる、コンセプト1ですと、「都市と自然が調和し」と言って、立川の自然環境のことと都市が調和しというふうに言っているんで分かるんですけども、その後に、市民サービスを読んでいくと、2行目に「環境に配慮したまちづくりを進めます」ということで、これ、地球環境のことを言っているんだなと解釈して、まあ、いいかなと思ったんです。ただ、ちょっと、これは何となく分かりにくいなと思っていて、次のページの親和性のほうのコンセプト2に行くと、きちんと「カーボンニュートラルを見据えた環境に配慮した」と、より具体的に書いてあるんですね。これ、環境、カーボンニュートラル、これはもはや、先ほど言っているとおり、国の施策、

大重要施策で、2050年、御存じのとおり、ゼロにしないではいけないというふうになっているんですね。これは10年だから要らないよと言うかもしれないんですけども、この施策においては、2030年度までに野心的な国は46%削減という、この第5次長期総合計画を考えると、2025年ですから、いずれにしても、2035年とかを考えると、カーボンニュートラルを見据えたと言っている場合ではなくて、カーボンニュートラルは必須なんですね。カーボンニュートラルを目標としたとか、もう必ず達成させるんだというぐらいの意気込みでどこも今施策をつくっているところだと思います。ちょっとそこら辺が後ろ向きかなと。ですから、未来志向だと、先ほど皆さんいろんなところであつたんですけども、やはりそのところはもう少ししっかりと野心的に書いたほうがいいのではないかなと考えております。それから、もう一回戻ると、親和性で具体的になっていたのが、性格になるとやや後退するところが少し散見されるところがあると思います。各分野の皆さん、そのののを感じているところがあるかと思しますので、その辺りをもう少し丁寧にする。そうすると、もっと文章が長くなってしまって分かりづらいという御意見もあるかと思いますが、その辺のところをしっかりと書き込むとよろしいのではないかなと思います。

以上、よろしくお願いいたします。

(朝日会長)

ありがとうございます。

(平澤委員)

すみません、簡単に。

(朝日会長)

平澤委員、お願いいたします。

(平澤委員)

甲野先生は必ずカーボンニュートラルを力強く推されますけど、私はもともと環境に興味があつて、カーボンニュートラル、全然否定するものではないと思います。確かに少ないほうがいいと思いますけれども、実際に日本の出しているCO₂は世界の3%ぐらいしかなくて、その中で幾ら削減しようとしてもかなり無理なところがあつて、先生がおっしゃっているような目標は恐らく達成されないだろうというところがあるんですね。世界的にもその辺、大分見直されてきて、カーボンニュートラルと言っているけど、どうかねというところまで今来ていると思います。ですので、あんまり強くカーボンニュートラルを打ち出すよりも、環境程度に収めておいたほうが私はいいだろうなと思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。先ほどお話しされましたが、政策との兼ね合いで、ここにどこまでキーワードを載せるか。西内委員も、先ほど子どものところもありましたし、どうしても情報量が案2のほうが多いので、そういうふうに、案1のほうでどこまでそれを伝えられるかというところは出てきますけど、そこはやっぱり政策の項とのつながりをどこまできちんと説明できるか、分かりやすく見せられるかというところかと思しますので、ここは、政策のほうは次ですよ。次の議論になり、かつ答申としての形ももう決まるという形になりますので、そののの、今日の御議論を踏まえた上で御検討いただければと思います。今のところ、案1の性格というところがいろいろと、案2で言われているような課題、キーワードの課題をいろいろつなげた形で対応できるというようなところがあつ

て、案1、性格というところがいいんじゃないかというのが若干多かったかなとは思いますが。ただ、私、すごくチャレンジングだと思うんですよね、案1でいくというのは。行政として、市としてはかなり、上位の戦略の下に、じゃあ、下位の政策をどういうふうに実現していくかというところは、今までよりも柔軟にやっていきますと、重複なく柔軟にやっていきますということのメッセージだと思うので、政策とのつながりのところできちんと表現できるというところをぜひ御検討いただければと思います。そういった御意見だったかなと思っています。

川口委員、お願いいたします。

(川口委員)

皆さんがおっしゃるように、私も、案1の性格というほうが大きなくくりになっているけれども、その下に落としたときの政策との結びつきにおいては、逆に、含めるものは多くていいのかなと思います。例えば、ここが表している、もっとすごく抽象的なことで考えると、コンセプト1みたいなのはやっぱり「安心と安らぎ」という部分を非常に語っているのに対して、立川が人口を減らさず今後10年やっていくというすごい、それを実現するために今立川が持っている差別性というのは、やっぱりダイナミズムだったり動的な力だったりということで、まさにそれを言おうとしているのがコンセプト2みたいなところなので、そういう大きなくくり、「安心と安らぎ」というのは当然担保するんだけれども、それを実現するためのダイナミズムみたいなのを語っているのがコンセプト2かと私は見ていました。

(朝日会長)

ありがとうございます。

お願いいたします。片岡委員、お願いいたします。

(片岡委員)

案1の性格でまとめるという方向性でもいいんですけども、健康という言葉が入っていないので、誰もが安心、安らぎ、健康を実感できるとか、どこかに健康という言葉が欲しいなと思いました。

以上です。

(朝日会長)

ありがとうございます。表現、文言のところですね。

(片岡委員)

表現のところ。

(朝日会長)

はい、文言ですね。御検討いただければと思います。ありがとうございます。

ほかにはございますでしょうか。辻本委員、お願いいたします。

(辻本委員)

私も、性格でまとめるという案1がいいなと思いつつ、ただ、やっぱり、案2親和性でまとめていращるところの「子ども」のフレーズが入ってくるといいかなと思いながら見ていたんですが、案1の中のコンセプト1のところにも、「都市と自然が調和し、誰もが安心とやすらぎを実感し続けるまちづくり」というふうにあって、都市と自然が調和という環境的な側面というところと、後段の誰もが安心と安らぎを実感し続けるというところのお互いに認め合って共に生きていくというようなところが、何か性格の違うものがく

つついたなという気がするんですね。ほかのコンセプト2とかコンセプト3とかというところは何となく前段も後段も一つのまとまりになっているような気がしたので、いいのかなと思いつつ、何かここだけ違うかなという気はして見ていました。ただ、性格でまとめるということのよさというのは、やっぱり横断的に、縦割り行政ではなくて、横のつながりを持って、同じ目標に向かってやっていく部分は課のつながりを持ってとか、縦割りではなくて横でつながってやっていく、政策を考えていくという、その方針自体はいいのかなと思ったんですが、そのコンセプト1のところは若干の違和感を感じました。

(朝日会長)

ありがとうございます。先ほどからありますよね、ここここは一緒じゃないかというような。そのところ、非常に多分意図もあるかと思いますので、そこも含めて、政策とのつながりのところでも説明されるかもしれませんし、少し見直すところもあるかもしれません。そこは御検討いただくということでよろしいですね。

(渡貫企画政策課長)

はい。

(朝日会長)

ありがとうございます。

篠原委員、お願いいたします。

(篠原委員)

案1のほうなんですけれども、ちょっと気になる言葉があるんですが、コンセプト3なんですけど、「市民に寄り添い」という言い方ですね。寄り添うというのは弱者に寄り添う、障害者に寄り添うとか。ただ、市民が寄り添う対象なのかなと。今までだと市民主体のとか市民目線のというのが、何となく、行政でやっていくんだけど、市民はそれは大変になるから、市民には寄り添いますよみたいな感じで、ちょっと主体的でなくなっているんですね。だから、ちょっとこの言い方はどうなのかなと。寄り添いの言い方は最近はやりなんですけど、こういう使い方ではないんじゃないかなとちょっと思いました。

(朝日会長)

ありがとうございます。そこも文言ですね。取りあえずガバナンスとしては、行政と共にといいますか、そういう意図ではあるかと思うんですけれども、表現のところですね。お願いいたします。御検討、お願いいたします。

ほかにはございますでしょうか。大塚委員、お願いいたします。

(大塚委員)

ちょっと全体を通して、また、委員としてというより、事務局側としてのまとめといいますか。先ほどからいろいろと出ているコンセプトというところの文章、センテンスについては、今日いただいている御意見を参考に少し文章のほうは調整させていただければと思います。より分かりやすく、伝わりやすいようにしていくのがいいのかなと思っています。特にこの市民サービスのところ、先ほど言われている環境であったり健康であったり、このところ、お正月にも地震がありましたけれども、防災という、そういった市民の安全・安心というようなところ、そこは、コロナの問題もあたり、感染症、そういったものが、これまでなかったことが、これから先どういったことが起きるのかというところにもしっかりと対処していくというような何か方向性の表現が入ってくるといいのかなと。学校であったり、いろんな市民の行動であったり、これから多分大事なところはキーワー

ドとして文言をもう少し入れていければ。事務局としてこれを今日お出ししているんですけども、ちょっと足りていない部分があったのかなと思うので、そこは少し検討させていただければ。「市民に寄り添い」というところ、ここは、今お話があったところなんですけれども、実はこれは市長の公約で「市民に寄り添い」と出てきているものがここに入れたという。事務局側として、ここが一番肝といいますか、それがあったので一旦入れさせていただいた。ただ、審議会の中でこういった御意見あったということは踏まえて、調整させていただければと。そういった表現を使っていたところがあるので、そういった表現になっているというところはちょっと御理解いただければと思います。ただ、市民と共に、市民参画、そういったものを非常に推進することによって、市民に寄り添いというのは市民と共に、そういう考え方でいくというところは御理解いただければと思います。

委員としてというか、事務局側の発言になってしまいますけれども、よろしくお願いします。

(朝日会長)

ありがとうございました。事務局側のほうでもまだちょっと、キーワードの中で検討している、漏れているところもあるというような御認識もあるということでしたので、今日いただいたいろいろな、足りないとか、変えたほうがいいのかいうところも、特に案1のほうだと少しコンパクトになっているところもありまして、お気づきの点がありましたら、お願いできればと思います。大体大きなところで出たように思うんですけども、まだ、ちょっと見直してみて、先ほど防災の話も大塚委員からありましたけれども、これが入っていないんじゃないか等がありましたら、会議の後でも事務局に御連絡いただければと思います。

それでは、時間も大分押してまいりましたので、3つ目、(2)まちづくりコンセプト(都市像)についての御意見、これで一旦締めさせていただきたいと思います。

それでは、本日も難しい議案でしたけれども、御議論いただきまして、ありがとうございました。事務局も、前回の審議会で出た御意見から、このような形で、美しくといいますか、きちんとまとめていただいて、本当にありがとうございます。ここからまた今日の議論を踏まえて御検討いただければと思います。

3 その他

(朝日会長)

それでは、「その他」ということで、事務局のほうから、その他についてお願いできればと思います。

(渡貫企画政策課長)

本日はどうもありがとうございました。今日の議論を踏まえまして、事務局で再度答申書のほうを修正いたしまして、次回の審議会ですらに御議論を深めていただきたいと思います。今回、政策の取組方針のほうはちょっとお示しできませんでしたので、主に今回の修正部分と次回は取組方針のところを重点的にお願いできたらと思ってございます。次回は最終回となります。第6回審議会は令和6年5月13日月曜日19時から、会場は同じく立川市役所2階209会議室で開催いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

(平澤委員)

すみません、1点。

(朝日会長)

平澤委員、お願いいたします。

(平澤委員)

この会議の開催の通知をメールでいただいたときに、F班の資料というのが添付されていたかと思うんですけど、あれはどういうふうに扱うんですか。

(渡貫企画政策課長)

今回、市民ワークショップの委員から、審議会の議事録を見た中で御意見をしたいところがあるんだというようなことがありましたので、一旦そういった御意見といたしまして、審議会の委員の皆様と共有という形で回させていただいたということでございますので、それをどういった形で委員さんのほうで斟酌されるかというのはそれぞれの委員の皆様の御判断に委ねるということで、あくまで事務局といたしましては、共有という形でさせていただきますところでございます。

以上です。

(朝日会長)

よろしいですか。

(平澤委員)

終わろうとしているところで申し訳ないんですけど、私が見る限り、ちょっとその、どういう御意見があるかよく分からないんですけども、発想はなかなか面白いかな。あれができると、かなり早く立川に来ることができるということで、結構面白いのかなとは思いますが。ただ、中で、南極の氷が解ければ20メートル海拔が上がるとか、あんなことが書かれていて、あれがかなりセンセーショナルな感じがするんですけど、結構、20メートル上がるには2万年ぐらいかかるはずなんで、ですので、あんまりあんなこと書かないほうがいいかなという気がしました。

(朝日会長)

資料へのコメントとして、ありがとうございました。

それでは、以上で本日の議事は終了しました。それで、今回は最終回ということで、答申案を議論いただくことになりますけれども、本日の議論でもありましたとおり、政策パートという大事なところも残っておりますので、次回もぜひよろしくお願いいたします。

それでは、第5回立川市長期総合計画審議会を閉会といたします。本日は本当に御多用中のところ、どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

—— 了 ——